

「施策」総括票

| | | | |
|----------------------|---|----------------|------|
| 施策展開 | 3-(1)-イ | 人流・物流を支える港湾の整備 | |
| 施策 | ②中城湾港の整備 | | 155頁 |
| 対応する 主な課題 | ○中城湾港新港地区は定期航路がなく、航路サービスが十分でないため、中部圏域の貨物の多くが陸上輸送のかさむ那覇港から搬出入を余儀なくされており、物流効率化や機能分担が不十分となっている。このため、既に供用している西ふ頭に加え、東ふ頭の早期供用や那覇港との適正な機能分担や定期船航路の実現に向けた整備が必要である。 | | |
| 関係部等 | 土木建築部 | | |

I 主な取組の推進状況(Plan・Do)

(単位:千円)

| 平成24年度 | | | | |
|-----------------|----------------------|------------------|------|---|
| 主な取組 | | 決算見込額 | 推進状況 | 活動概要 |
| ○中城湾港の整備 | | | | |
| 1 | 港湾施設整備(中城湾港・新港地区) | 国直轄 | 順調 | ○国は、船舶が接岸・停泊する水域(泊地)の浚渫を推進した。(1) |
| 2 | 物流拠点化促進事業(中城湾港・新港地区) | 70,198 | やや遅れ | ○中城湾港→志布志港→鹿児島港→那覇港→中城湾港航路における定期船実証実験を実施したが、中城湾港発の貨物が少ないことからやや遅れとなった。(2) |
| 3 | 物流機能等強化事業(中城湾港・新港地区) | 124,845 | 順調 | ○中城湾港新港地区において大型油圧式オールテレーンクレーン1基を購入した。(3) |
| 4 | 埋立事業(中城湾港・泡瀬地区) | 国直轄 県:720,654 | 順調 | ○国は、作業用航路18万 ³ m ³ を浚渫し、埋立を行った。県は、突堤162m、中仕切堤89mの整備を行った。(4) |
| 5 | 港湾施設整備事業(中城湾港・泡瀬地区) | 720,654 | 順調 | ○岸壁・防波堤・泊地浚渫等の整備を行った。(5) |

様式2(施策)

II 成果指標の達成状況(Do)

(1) 成果指標

| 成果指標名 | | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|-------|------------------|---|------------------|--------|---------|-------|
| 1 | 中城湾港(新港地区)の取扱貨物量 | 61万トン (23年) | 60.5万トン (24年) | 110万トン | △0.5万トン | — |
| | 状況説明 | 平成24年の取扱貨物量は60.5万トンと前年度と比べて0.5万トンの減となっている。現在、中城湾港には本土への定期船が就航していないため、中城湾港周辺地域や新港地区に立地する企業から搬出される貨物は、陸路で那覇港へ輸送されていることから、中城湾港発着の定期船確保が課題となっている。現在、行っている定期船就航に向けた実証実験を継続し、定期船の就航に向けた取組を推進する。 | | | | |

(2) 参考データ

| 参考データ名 | 沖縄県の現状 | | | 傾向 | 全国の現状 |
|--------|--------|---|---|----|-------|
| — | — | — | — | — | — |

III 内部要因の分析(Check)

| |
|--|
| <p>○中城湾港の整備</p> <ul style="list-style-type: none">・国は平成28年度の東ふ頭の供用を目指して航路浚渫工事を推進していることから、中城湾港新港地区の利用促進のためにも国と並行して中城湾港新港地区の上屋整備を行う必要がある。・中城湾港・泡瀬地区について、現在は海浜緑地を整備しているところであるが、全施設の完成予定は平成30年代前半と施設が利用できるまで時間を要する。市民が早期に利用できるように、人工海浜でのレクリエーションなどの一時的なイベント利用の可能性について検討する必要がある。 |
|--|

IV 外部環境の分析(Check)

| |
|--|
| <p>○中城湾港の整備</p> <ul style="list-style-type: none">・新港地区内に立地する企業からは、中城湾港への定期船の就航について強い要望があることから、定期船就航に向けた実証実験を継続する必要がある。・実証実験に係る荷主ヒアリング等において、鹿児島航路だけではなく先島航路と一体となった航路の拡充意見があるため、先島への定期航路の検討も必要である。・中城湾港・泡瀬地区の埋立事業については、地元の沖縄市等から早期整備の強い要請があるため、国の工事と連携し、アクセス橋梁などの工事工程計画を見直す必要がある。 |
|--|

V 施策の推進戦略案(Action)

○中城湾港の整備

- ・中城湾港を発着する定期船就航に向け、国の整備と並行してふ頭内連絡道路、ヤード舗装、上屋の整備等の港湾整備を推進するとともに、また定期船就航に向け、沖縄市など関係機関と協働し、企業(荷主)に対しての積極的な誘致活動を行う。
- ・大都市圏への航路の拡充、先島航路、RORO船(貨物専用フェリー)の実証実験を実施する。
- ・中城湾港・泡瀬地区の埋立事業の各施設(臨港道路、緑地、物揚場、防波堤、マリーナ等)の工事工程計画を見直し、事業全体の期間短縮を図る。
- ・中城湾港・泡瀬地区の人工海浜について、レクリエーションなどの一時的なイベント利用などの早期利用が図られるよう、沖縄市と連携し検討を行うとともに、平成25年度から養浜工事に着手する。